

景勝地「屋島」を活性化

高松市

高松市の景勝地「屋島」に、新たな観光の目玉となる山上拠点施設などが整備されることになった。これまで屋島の活性化に取り組んできた公明党の山本博司参院議員と市議会公明党の議員団はこのほど、現地を訪れ、関係者から状況を聞いた。

瀬戸内海国立公園の中に 落ち込んでいる。

ある屋島は、豊かな自然と こうした減少傾向に歯止めをかけようと、市は20

が、国

史跡・天然記念物に指定され、古くから

高松市を代表する観光地として栄えていた。ピーク時には年間250万人が訪れていたが、瀬戸大橋開通後の1987年以降は減少が続き、現在は50万人にまで

国の支援事業で 山上拠点施設整備へ

山本氏、公明市議団が現地視察

13年に「屋島活性化基本構想」を策定。その一環として、昨年3月には復元整備された古代山城・屋嶋城跡城門を新たな観光名所と

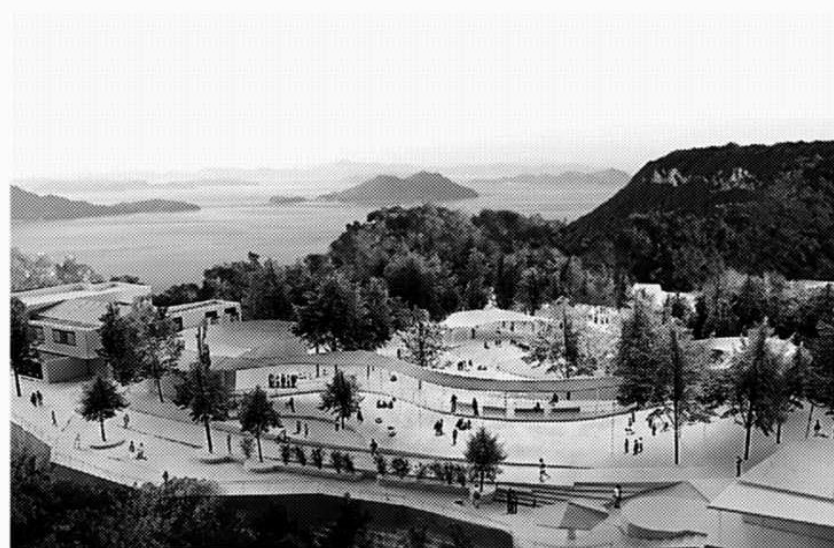
の老朽化、駐車場のスペース不足など多くの課題が残されていたが、今年3月に転機が訪れた。国土交通省が募集していた全国10地区の「景観まちづくり刷新支援事業」の一つに指定されたのだ。同支援事業は、景

の老朽化、駐車場のスペース不足など多くの課題が残されていたが、今年3月に転機が訪れた。国土交通省が募集していた全国10地区の「景観まちづくり刷新支援事業」の一つに指定されたのだ。同支援事業は、景

中에서도目玉となるのが、山上拠点施設として整備されるビジターセンター。展望スペース、MICE(国際的な会議や展示会などの総称)などに使用できる多目的ホール、源平合戦をモチーフにしたパノラマ展示スペースなどを併設する予定で、今年度中に設計に着手し、2019年度内の完成をめざす。同支援事業



屋島山上の屋嶋城跡城門を視察し、関係者から状況を聞く山本氏(右から2人目)ら



2019年度内の完成をめざす山上拠点施設のイメージ

して一般公開するなど、産官学の連携で44の事業を実施。以前から割高感が指摘されていた屋島ドライブウェイの通行料についても、昨年秋には無料化に向けた社会実験を行うなど、さまざまな施策に取り組んでいた。

その一方で、道路や施設観資源の保全・活用に関する3年間の事業費のうち半分を補助するもので、これにより短期集中的なハード整備が可能となった。今回指定されたのは、栗林公園・玉藻公園を含む「高松Tゾーン3大観光地区」だが、屋島においては、屋島ドライブウェイの道路整備、遊歩道・登山道の整備、駐車場の拡大、廃屋の撤去など7計画を予定している。

撤去など7計画を予定している。



7月から通行料が無料となった屋島ドライブウェイ

の指定に向けて尽力してきた山本氏は、屋島の活性化を推進してきた市議会公明党の議員団と共に、山上拠点施設の整備予定地や官民連携でリニューアルが計画されている新屋島水族館のほか、屋嶋城跡城門などを見て回った。

市観光交流課によると、屋島ドライブウェイの通行が今年7月から無料化(山上駐車場は有料)されたことで、通行台数が過去3カ年の平均台数に比べ、約1・5倍に増加しているという。

松下雄介副市長は「年間70万人までの観光客回復をめざす上で、山上の魅力創出が不可欠。国の事業に指定されたことは、屋島活性化に向けて大きな弾みとなる」と話していた。

山本氏らは「国と市の連携で屋島再生を全力で後押しする」と語っていた。